小　学　部

１　目　　標

（１）　体験的な活動を通して、興味・関心を広げ、意欲をもって取り組む態度を育てる。　＜自ら学ぶ＞
（２）　個々に応じた表現方法を用いて、表現する意欲を高める。　＜豊かに表す＞
（３）　健康面に配慮すると共に、基本的な生活習慣の獲得を促す。　＜健やかに生きる＞
（４）　教師や友達との活動を通して、自ら関わろうとする気持ちを育む。　＜手をつなぐ＞

２　重点事項

（１）児童の目指す姿を念頭においた授業実践を行い、評価・改善を通し、次年度の教育課程編成につなげる。

①学級、学習グループで「目指す姿」（小学部卒業／小学部３年までに身に付けさせたい力）について検討、共有し、個別の指導計画に反映させて指導する。
②授業のねらい、児童のねらい達成のための支援方法等、観点を明確にした授業の打ち合わせや評価を行い、次時の授業へつなげる。
③ＩＣＴを活用した取組が、児童の学びにつながっているか、効果的な活用の仕方なのかを評価、改善する。。
④成果を踏まえた上で、次の段階への学びを目指し、違う方面からのアプローチ（環境、グループ編成、指導体制、補助具、時間配分等）をするなど、スモールステップでねらいをかえた授業展開をする。
⑤学級・学年通信で、授業のねらい、経過、成果を分かりやすく伝え、保護者、教師間で共有する。

（２）様々な人や外部と関わる機会を設定し、生活経験の拡大や学びの広がりを図るとともに教師間でねらいを共有した学習活動を計画、実践、評価する。

①様々な人と関わる学習の場（学年、学部、類型での学習、交流及び共同学習、校内・校外資源の活用等）を通し、様々な気持ちや考えに触れることで、気付きや考える力を育てる。
②学年、学部合同の学習や行事、校外学習では、学習グループに応じたねらいを明確にした指導を行い、評価する。
③交流及び共同学習（オンライン交流含む）では、事前打ち合わせで双方のねらいを十分確認した活動を行う。
④めあてが、児童に分かるものになっているか、何ができたのか（できなかったのか）が分かる評価になっているのかを日々、検討、改善しながら実践する。

（３）現在及び将来の生活を考えた基本的生活習慣の確立に向けた実践を行う。

①家庭や関係機関と連携し、児童の実態や将来の姿に向けた課題を面談等で話し合い、今必要な指導を共有して実践する。
②教師が見本となる「挨拶」「返事」「言葉遣い」「時間を意識した行動」を示す。

＜訪問教育（在宅、センター訪問）＞

〇児童の興味・関心を広げ、人と関わる力を育てることをねらい、教師間で連携しながら学習活動の工夫を図り、ＩＣＴを活用した授業実践や同行訪問・スクーリング等を通して、学校や学年の友達や教師との交流を実施する。